井上 道義の 未来だった今より

♬ 続達成感

前週、兄弟子の世界文化賞受賞で少し触れたが、近頃、僕自身は危険な精神状態にいると感じる。やりたかったあれもやったし、なりたかったこれにもなった……という達成感の海に、クラゲのようにフワフワ浮かんでいる。

指揮者になりたいと思って、25歳でなってみたものの、「良い指揮者」になる気がなかったことに気づき、ヨーロッパのかなりのオーケストラ、日本の主たるオーケストラの客演をたくさんやり、努力と経験を重ね、今、なんとか良いそれ、になっている。

オペラなどの演出も名作を中心にずいぶんやった。テレビも1980年代にNHKのゴールデンタイムで黒柳徹子さんと一緒にやったり、「第九を歌おう」という番組を作ったり。その後もマーラー交響曲全曲演奏会、ショスタコーヴィチ交響曲全曲演奏会、先日はOEKの楽員さんに馬鹿にされる危険も顧みず、向こう見ずな勇気でヘンデル役の役者もやり、マトモな批評家から「お褒め」もいただいた。

奥さんは元気で張り切って仕事もしているようだし、転んでお岩さんみたいな顔になった妹も全快したし、家のつがいのアヒルも、僕自身も元気だ。

もう今は、何か悪いことが起こらないよう神様仏様に祈るしかないのかもしれない。いっそ苦しんでいる人に、あるものをみな寄付して死んでしまえば良いのか？　「こんな最低なクソジジイの過去の勲章の掃きだめのような状態を何とかしたい」と、この原稿の下書きを親友に見せたら「君は25歳の頃からこう言ってた」と笑われた。生まれて65年経ってもこんなにみすぼらしいのは、まるで我が国の状況そのままだ。何とかしたい！　どうする？

（オーケストラ・アンサンブル金沢音楽監督）

いしかわ 金沢大学探訪 14

気

「大気や空気という言葉にある『気』の文字につられて、空気だけを見てはだめ」が研究のモットーである。空気中には体以外のものが多数浮かんでおり、それらが空気の性質を大きく左右している。

湿度が100％になると雲ができたり、雨が降ったりする。「そんなこと、当たり前でしょう」と思っている人は、空気のことが案外よくわかっていない。

実は、空気中にエーロゾルと呼ばれる小さな粒子が浮かんでおり、雲粒が生まれる時の種になっている。エーロゾルが存在